

荒井 嗣 雄

第20回 テノール リサイタル
ピアノ／荒井真紀子

～日本の情景・叙情・郷愁を歌う～

プログラム

山田耕筰：鐘が鳴ります 待ちぼうけ この道
橋本國彦：富士山見たら 田植唄 お六娘
近衛秀麿：ちんちん千鳥 服部 正：野の羊 越谷達之助：初恋
滝 廉太郎：荒城の月 中田 章：早春賦 成田為三：浜辺の歌
小松耕輔：泊り船 中山晋平：出船の港 多 忠亮：宵待草
平井康三郎：平城山 "日本の笛"より ちびつぐみ 九十九里浜 他

2025 10 / 25 (土)

開場 15:30 開演 16:00

入場無料 (全席自由)

穂の国とよはし芸術劇場
PLAT アートスペース

※未就学児の来場は、ご遠慮ください。

※やむを得ず、曲目が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

お問合せ caldo.casa-8272@outlook.jp

プロフィール

荒井嗣雄（テノール）

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。東京二期会オペラ研修所修了。「第九」「メサイア」シューベルトのミサ曲などのソリストや、オペラ「修善寺物語」「春琴抄」「ラ・ボエーム」「カルメン」、コンサート形式のオペラでは「椿姫」「ルチア」「コシ・ファン・トゥッテ」などの主役を演じる。東京・名古屋・豊橋・福井においてイタリア歌曲、オペラアリア、日本歌曲、シューベルト：歌曲集「美しき水車小屋の娘」（毎日新聞社評：身上の“強い声で”若々しい勢いで、歌いきっていて、少々粗っぽくはあっても、後味も悪くない。作曲者が志向した青春の歌は当時、このように歌われていたのだろう、とも思われた。）シューマン：歌曲集「詩人の恋」（音楽の友之社評：もしまえの明るい力強さと、伸びやかさで感情豊かに描き、新鮮な感覚美が追求されていたようだ。フレーズのテンションを高く保ち、気概に満ちた表現力と相まって聴き応えがあった。）などのドイツリートや、その他、多岐にわたるジャンルで、19回のリサイタルと、11回のジョイント・リサイタルを開催。また各地において各種コンサートに多数出演。
元、名古屋音楽大学講師、愛知県立明和高等学校音楽科教諭、愛知県立時習館高等学校教諭。
現在、東京二期会会員。

荒井真紀子（ピアノ）

国立音楽大学声楽科（ソプラノ専攻）卒業。東京二期会オペラ研修所修了。福井と豊橋において荒井嗣雄との第1回 ジョイント・リサイタル（ソプラノ）で共演。その後、荒井嗣雄の練習パートナーとして伴奏に携わる。荒井嗣雄テノール公開録画演奏会（穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース）でのシューベルト：歌曲集「美しき水車小屋の娘」、東京藝術大学同期生とのコンサート（旧東京音楽学校奏楽堂等）、近年では、荒井嗣雄 第17回、18回、19回 テノール リサイタル（穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース）で伴奏を努める。
1984年～2017年迄、荒井音楽教室を主宰、後進の指導にあたる。